年頭のごあいさつ

茨　城　県　知　事
茨城県統計協会総裁
竹　内　藤　男

新春にあたり，謹んで皆様のますますのご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。

昨年も，県民の皆様の温かいご支援をいただき県勢発展のため全力で頑張ってまいりました。

皆様のご協力のお陰で，長い間進めてまいりました各種の事業も次々と実現をみたところであります。常磐自動車道がいわき市まで全線開通したことにより，いよいよ県北時代の幕開けとなりました。霞ヶ浦用水も一部通水の運びとなりましたし，最新の設備を備えた県立中央病院が竣工し，また，我が国有数の規模と内容の近代美術館が水戸千波湖畔景勝の地に完成いたしました。

ハイテク企業の立地も一段と進みました。科学技術の県へ，文化の県へという新しい目標に近づきつつあるように思われます。

今年は80年代最後の年，豊かな自然のなかにArt & Technologyの新しい息吹を感じながら，21世紀日本のリーディング県を目指して，長期的かつ広域的観点から数々の施策を推進していかなければならないと，決意を新たにしております。

北関東自動車道，首都圏中央連絡自動車道，東関東自動車道水戸線，常磐新線など，次の時代の交通網の整備をさらに推進してまいります。特に本県は，首都圏の一翼を担う地域として大きな開発可能性を有しております。グレーターつくば構想や新さしま計画を具体化していくとともに，常陸那珂港を中心とする常陸那珂地区開発やリゾート地域の整備にも弾みをつけてまいります。

つくば研究支援センターの今年開業により，科学技術の集積を活用した産・学・官交流と地元中小企業の技術力の向上を一層促進するとともに，先端技術の導入による農業，水産業の振興，流通・サービス業の育成などに努め，また，高度技術化，国際化などに対応した人材の育成にも力を注いで，先進産業県としての基礎づくりを進めてまいります。

総合保健医療ゾーンの整備をはじめとする保健医療の充実や，茨城わくわくプランの推進など高齢化社会に対応した福祉の充実，さらに生涯学習の推進などにより，県民が生涯にわたって健康で生きがいのある生活ができるような施策展開を図ってまいります。また，文化・芸術の振興と，豊かな水と緑を大切にした環境づくりなどに力を入れて，活力と潤いある県民生活を実現できるよう努めてまいります。

今年もまた，皆様方のなお一層のご支援，ご協力をお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

茨城県企画部長
茨城県統計協会長
安　達　常太郎

新春を迎えるにあたり，皆様方のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げますとともに，日頃統計行政にお寄せいただいておりますご支援，ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

昨年は，常磐自動車道がいわき市まで全線開通，また，県立近代美術館が水戸千波湖畔に開館，更に，科学技術等の先端企業は筑波研究学園都市を始め県内各地に立地しました。21世紀日本のリーディング県を目指し，文化や先進産業の発展基盤の整備を着々と進めているところであります。

さて，我が国の社会・経済の情勢をみると，昨今の円高の急速な進行，それに伴う輸出関連産業の不況，また，技術革新や高度情報化などによる産業構造の変化などがみられます。更に高齢化社会への急速な移行など社会の急激な進展や多様化に対処していくためには，的確な現状把握と将来の進路を示す指標としての統計の果たす役割は一層重要性を増すものと思われます。

しかしながら統計を取り巻く環境は，住民意識の多様化，プライバシーの問題，統計に対する理解の不足などにより依然として厳しいものがございます。このため県といたしましても統計に関する広報活動を充実強化するとともに，統計調査結果の県民への還元を充実させることにより，統計に対する県民の理解を深め，統計調査環境の改善に努めたいと考えております。

また，統計調査結果の早期公表，利用者のニーズに対応した提供方法の充実などにより統計の利用促進を図りたいと思っております。

昨年は，皆様方の絶大なるご協力により，例年実施している統計調査のほかに，茨城県農業基本調査，商業統計調査，住宅統計調査，漁業センサス等の大規模統計調査を順調に進めることができましたことを心から感謝申し上げます。

本年も全国消費実態調査など各種の統計調査が行われます。どうか皆様方におかれましては，統計のもつ社会的意義と重要性を十分ご認識いただき，本県統計事業発展のため尚一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げまして，新年のごあいさつといたします。

統計グラフコンクール・全国特選受賞

第39回茨城県統計グラフコンクールは，応募作品11,431点(応募者22,643人)を数え，今年も全国第１位の応募作品数となりました。(表―１)

審査は，県内５地区において地区審査員により地区別審査がまず行われ，作品442点が選ばれました。これらの作品についての最終審査は9月13・14日の両日，県審査員10名全員参加のもとに厳正に行われ，入賞作品67点が最終的に選ばれ，このうち特に優秀な作品19点については，全国コンクールに出品となりました。

県審査員の選評は，「今年度の作品の傾向として，建設的な明かるい作品が多く，欠陥作品は例年より少なかった。また，タイトルの書き方などに新しい技法が取り入れられてきた反面，テーマについては，独創的なものやユニークなものが例年よりやや少なかった感じがした。」ということです。

入賞者については，11月11日に水戸市の県立県民文化センターにおいて開催された，第30回茨城県統計大会の席上，表彰が行われ，賞状と副賞品が贈られました。なお，当日これら入賞作品は会場ロビーに展示され，たくさんの方々にご覧いただきました。

また，12月16日から20日までの５日間，水戸駅前の川又書店においても，これらの入賞作品を展示し，一般の皆様方にもご覧いただきました。

県審査の対象となった442点の作品のうち一般の部の４点を除く438点については，今年６月初旬から８月いっぱいの期間，県内５地区毎に各小・中学校を巡回して展示していただく予定になっております。

第36回統計グラフ全国コンクールについて申し述べますと，全国で77,678点の応募作品があり，このうち各県から中央審査に出品された739点について，９月27日に審査会が行われました。

この結果，本県出品作品から10点が入賞し，うち１点(３部の中学生の作品)が特選に輝き，本県は入賞作品数においても全国第1位となり，(表―1)本県の統計グラフの作成活動はここ数年間，量・質とも全国のトップレベルを維持しております。

特選の表彰については，10月26日に香川県高松市の香川県県民ホールにおいて開催された，第39回全国統計大会の席上で行われ，結城市立結城東中学校２年・近川直美さんが中学生の部の全国代表として受賞いたしました。

次に，県知事賞受賞作品等及び本県の全国コンクール特選受賞作品等を紹介します。

(統計課・統計指導グループ)

表―１　第36回(昭和63年度)統計グラフ全国コンクール応募・入賞作品数

(単位：点)

都道府県	応募作品数							入賞作品数			
	第１部	第２部	第３部	第４部	第５部	合計	順位	入選	佳作	合計	順位
北海道	39	88	14	—	3	144	42	—	3	3	15
青森	127	164	11	4	2	308	28	2	—	2	18
岩手	100	176	6	8	—	290	30	—	—	—	—
宮城	147	238	496	4	6	891	17	—	5	5	9
秋田	87	98	7	2	1	195	36	—	—	—	—
山形	30	139	26	—	1	196	35	—	—	—	—
福島	175	496	17	5	2	695	19	—	1	1	27
新潟	142	299	47	—	2	490	25	3	2	5	9

県全体にレベルアップ —新技法など—

表—1　第36回(昭和63年度)統計グラフ全国コンクール応募・入賞作品数（つづき）

（単位：点）

都道府県	応募作品数							入賞作品数			
	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	合計	順位	入選	佳作	合計	順位
茨城	4 265	5 806	1 356	—	4	11 431	1	4(1)	6	10(1)	1
栃木	53	68	32	—	9	162	39	—	4	4	12
群馬	626	1 068	469	—	18	2 181	10	7	2	9	3
埼玉	188	749	2 555	1	6	3 499	9	3(1)	6	9(1)	3
千葉	802	1 321	1 657	1	2	3 783	7	1	1	2	18
東京	22	294	1 011	5	7	1 339	16	—	2	2	18
神奈川	1 571	3 049	2 577	17	—	7 214	3	2	5	7	6
山梨	45	100	32	1	—	178	37	—	—	—	—
長野	615	2 277	779	4	1	3 676	8	2	3	5	9
静岡	1 710	3 085	1 696	—	—	6 491	5	5	2	7	6
富山	44	88	432	2	—	566	20	1	1	2	18
石川	25	57	125	—	3	210	34	—	2	2	18
岐阜	3 453	3 183	329	6	1	6 972	4	1	2	3	15
愛知	218	814	738	12	—	1 782	11	—	6	6	8
三重	7	65	486	—	—	558	21	—	1	1	27
福井	649	1 353	3 149	—	—	5 151	6	—	—	—	—
滋賀	339	630	748	—	—	1 717	13	—	1	1	—
京都	16	386	133	6	3	544	22	2	—	2	18
大阪	35	476	5	9	1	526	23	1	—	1	27
兵庫	230	585	505	65	11	1 396	15	6(1)	4	10(1)	1
奈良	387	1 146	233	—	—	1 766	12	—	—	—	—
和歌山	16	5	52	—	—	73	45	—	—	—	—
鳥取	48	60	11	—	3	122	44	—	1	1	27
島根	40	130	74	—	2	246	31	—	—	—	—
岡山	149	264	84	—	—	497	24	—	2	2	18
広島	52	147	22	—	—	221	33	—	—	—	—
山口	20	34	73	5	—	132	43	—	—	—	—
徳島	7	20	22	13	—	62	47	—	2	2	18
香川	850	832	1	27	—	1 710	14	6(1)	2	8(1)	5
愛媛	3 403	3 671	573	—	—	7 647	2	—	4	4	12
高知	44	85	28	—	—	157	41	1	2	3	15
福岡	80	187	38	—	3	308	28	—	1	1	27
佐賀	189	422	122	14	7	754	18	—	2	2	18
長崎	21	35	11	—	2	69	46	1	—	1	27
熊本	61	95	2	—	1	159	40	—	—	—	—
大分	75	184	92	24	—	375	27	3	1	4	12
宮崎	46	112	14	1	—	173	38	1(1)	—	1(1)	27
鹿児島	50	157	15	9	—	231	32	—	—	—	—
沖縄	12	35	334	—	—	381	26	—	—	—	—
全統連受理(香港等)	…	…	…	…	…	10	—	—	1	1	—
合計	21 310	34 773	21 239	245	101	77 678	—	52(5)	77	129(5)	—

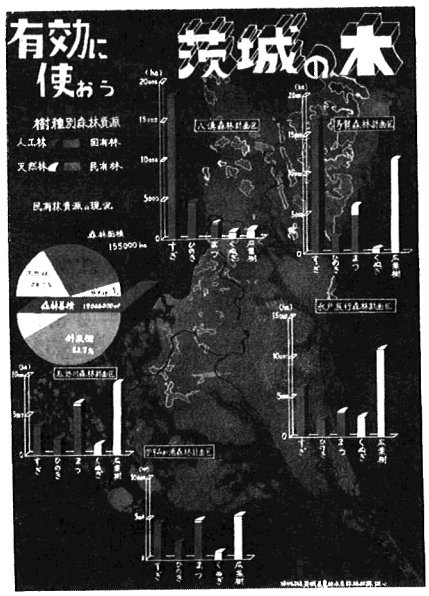
（注）（　）内数字は特選を内数で示す。

◇統計の窓

1部　知事賞・全国佳作

土浦市立東小学校２年

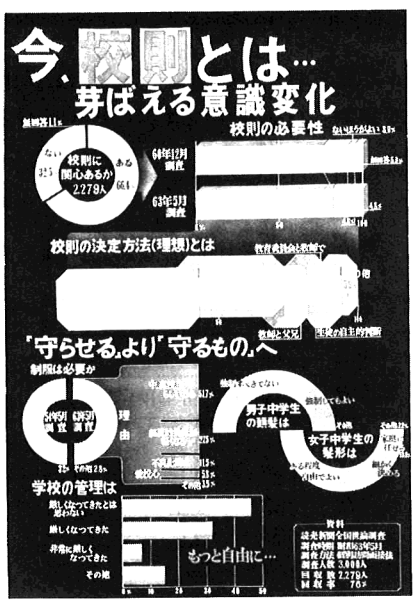
岩　田　史　子



2部　知事賞・全国入選

美野里町立納場小学校６年

長沼夕子・佐藤洋子・田中久美子



5部　知事賞

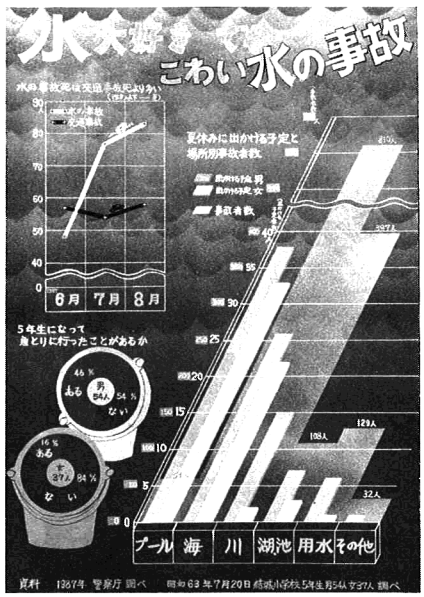
友部町

青　木　勇　一

1部　議長賞・全国佳作

千代川村立大形小学校１年

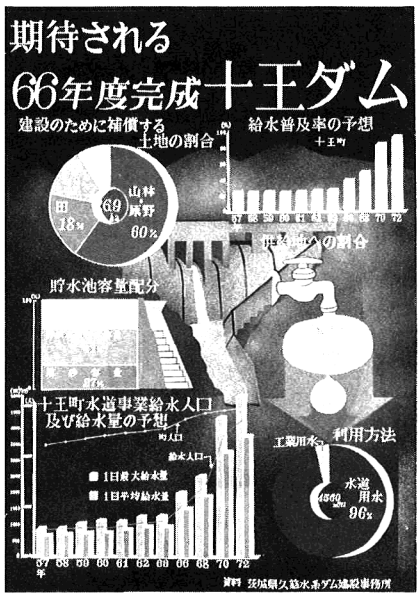
中山美紀・根本弘子



２部　議長賞

結城市立結城小学校５年

坂　田　和　徳



３部　議長賞・全国佳作

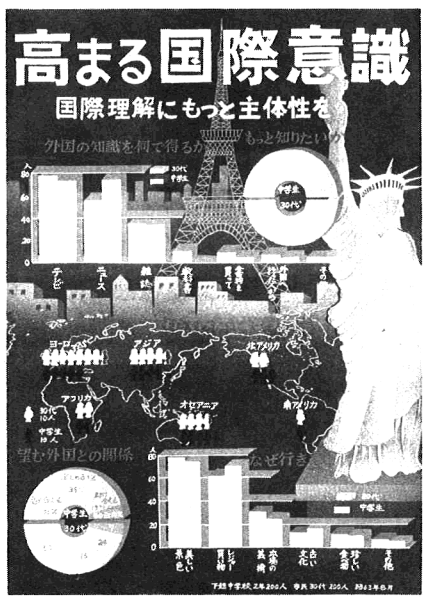
十王町立十王中学校３年

深　津　一　郎

３部　教育長賞・全国入選

結城市立結城中学校１年

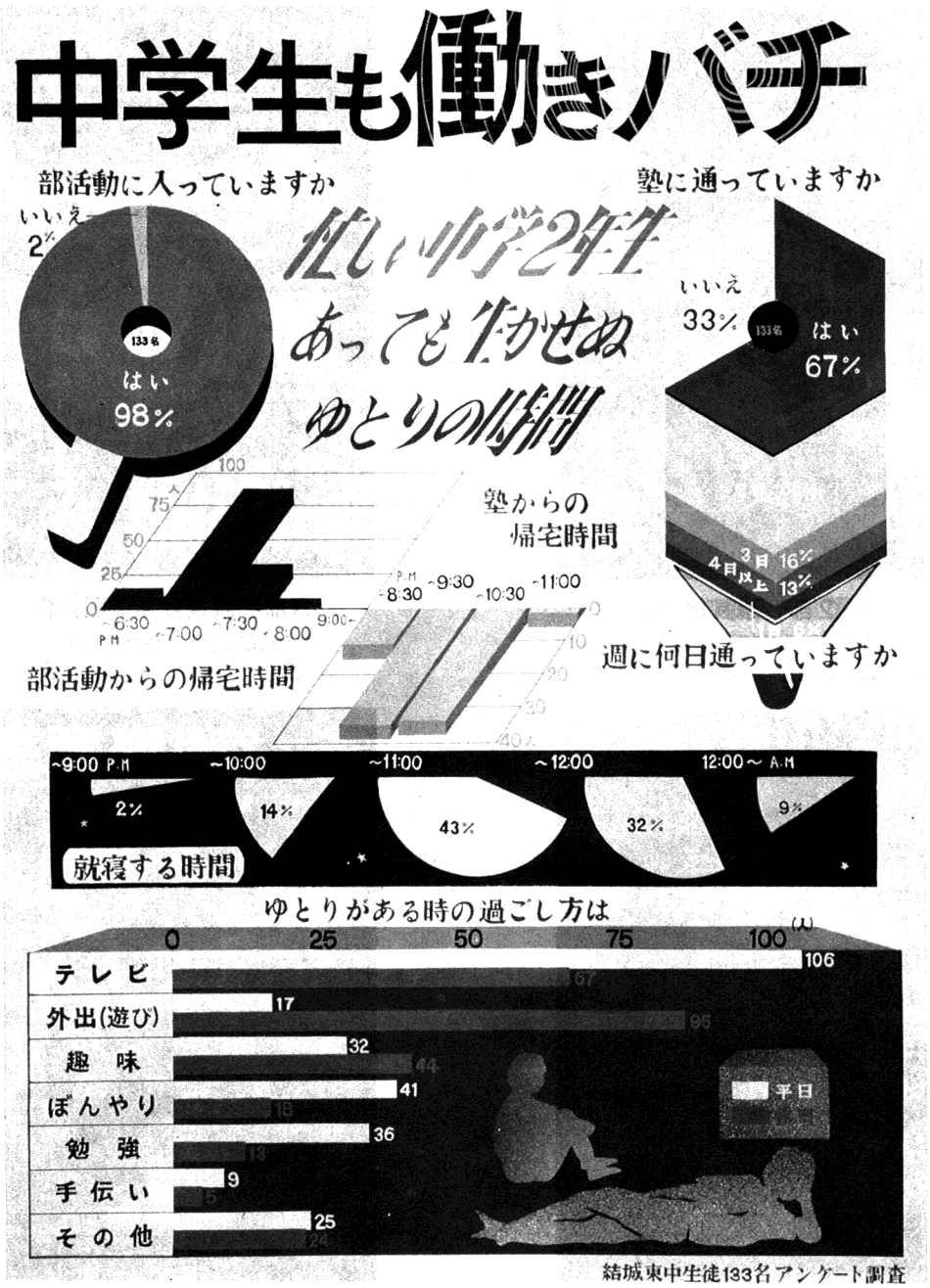
大崎雅則・西垣内裕治・佐藤達視・関　高秀



３部　教育長賞・全国入選

下館市立下館中学校２年

中丸千賀子・小島愛子・中尾悦子・北畠祐子



３部　知事賞・全国特選

結城市立結城東中学校２年　　近　川　直　美

受賞のよろこび

結城市立結城東中学校２年
近　川　直　美

「どうだ，１人で統計グラフをやってみる気はないか。」と担任の小坂和美先生から話があったのは，１学期の終わりの頃でした。この頃，私の部が休部となり転部でテニス部に移ったばかりでしたので私にとって部活の時間はとても貴重でした。その半面，統計グラフもやってみたくなり私の頭の中はポスターカラーの色で染まっていました。

そこで顧問の先生や家族に相談したところ「部活は気にしないで夏休みしか出来ない統計グラフの方に打ちこんでやってみたらどう？。」と励まされました。(よーし，やるからには精一杯一生懸命やってみよう。) この意気込みで夏休みを迎えました。

まず，先生と心を向かい合わせてこれからの作品作りについて話し合いました。テーマ選びは部活，勉強，塾と忙しい中学２年生の姿を見て自分でも体験している身近な事を調べてみたかったのでこのテーマにしました。調べる内容，どのように調べるかなどを決め，２年生133名対象にアンケートをとりました。作成，回収，集計，構図，配置などを少しずつ分かりやすく直して，方眼用紙にまとめていきました。もう夢中でした。やっとの思いでまとめ上げていよいよ着色です。また色の使い方などに苦心しました。せっかく塗った所にひびが入ってしまって何度も塗り直した時もありました。けれど，１日１日出来上がっていくグラフを見ていると嬉しくて嬉しくて学校へ行くのも軽々でした。先生との朝の約束は８時半でしたので，その前に50分位珠算塾へ行ってソロバンをはじいてから学校へ行きました。こうして，母の作ったお弁当をお昼に食べて５時頃まで，１か月間頑張りました。そして，やっと完成した時は何とも言えない満足感でしばらくはじっと見入ってしまいました。涙がこぼれそうでした。(やっぱりやってよかった。) 苦しかったけれど，やり通せる自分が見つかったような気がしました。

私の作品「中学生も働きバチ」が，県で知事賞，全国で特選という吉報を先生から受けた時は，まさか！と信じられませんでした。まして，特選の表彰式が香川県と聞いてさらに驚いてしまいました。初めて行く高松，10月26日の表彰式を指折り数えて待っていました。

当日は先生と母と私の３人で出席しました。式場で幕が上がってもまだ夢を見ているようでした。名前を呼ばれても雲の上を歩くような感じで前へ進みました。そして，賞状を手にして，初めて特選という実感がじわじわと伝わってきて胸の中は喜びで一杯になりました。他の受賞者の人達も，今，私と同じ気持ちなんだなと思い，受賞のよろこびをかみしめながら家へ帰りました。

知人からお祝いの電話が何本も入って，一緒に喜んでくれました。とても嬉しかったです。

このような立派な賞を頂くことができたのも，伊東健校長先生はじめ小坂先生の熱心な御指導があったからです。今回の特選という受賞は，私にとって一生忘れられない思い出となりました。

これからもこの経験を生かして頑張って行きたいと思います。どうもありがとうございました。

受賞のもよう

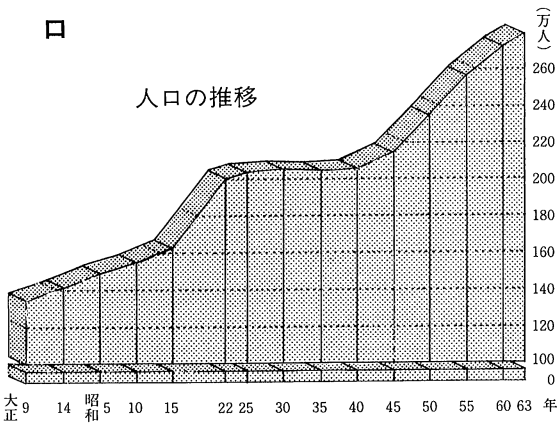
グラフでみる茨城'88から

はじめに

今日では，様々な分野の統計が数多く作られています。それらの統計のすべてに目を通すことはできないことなので，県の姿を全体的にとらえることは誰にとっても難しいことです。

グラフでみる茨城'88は，広く県民の皆様にも県の姿をご理解いただけるようグラフなどを用いて，わかりやすく編集したものです。昭和63年２月創刊で，今回が第２号目に当たり，昭和63年10月に発行しましたので，この冊子の一部を抜粋し，紹介いたします。　（統計課・統計資料利用研究会）

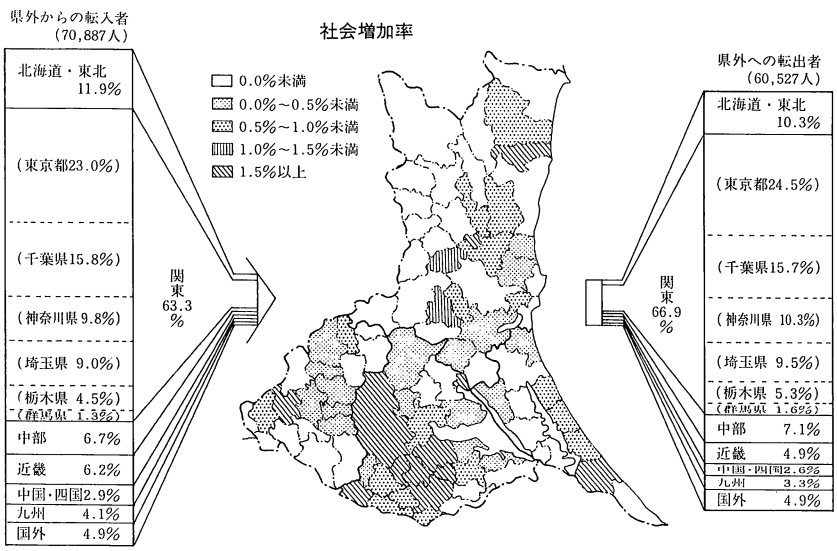
人　口



注）各年10月１日現在（63年は８月１日現在）

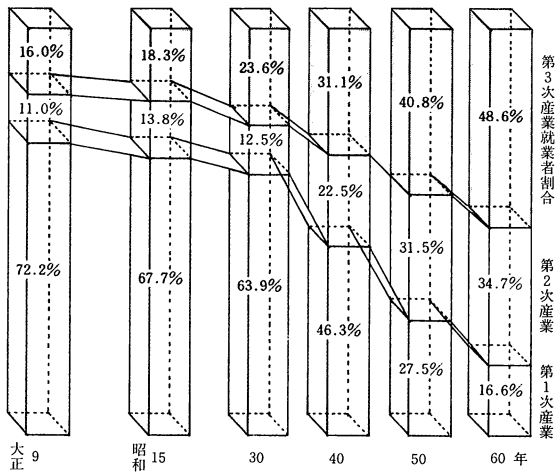
本県の人口は昭和22年～40年までは205万人前後で推移したがその後，高い伸びを示し，昭和60年には270万人を超え，63年８月１日現在では279万人となっている。

社会動態（昭和62年）



本県の昭和62年の社会動態をみると，県外からの転入者は７万１千人，県外への転出者は６万１千人で，差し引き１万人の社会増加である。

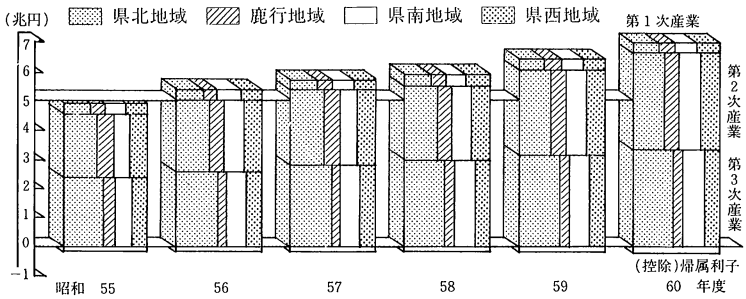
産業３部門別就業者割合の推移



産業３部門別就業者の割合の推移は第１次産業が低下を，第２次，第３次産業が上昇の傾向を示すが，大正９年～昭和30年はその傾向がゆるやかで，昭和30～60年は急激である。

注）第１次産業＝農業，林業，漁業
第２次産業＝鉱業，建設業，製造業
第３次産業＝電気・ガス・熱供給・水道業，運輸・通信業，卸売・小売業，飲食店，金融・保険業，不動産業，サービス業，公務

産業別県内総生産の推移



県民所得

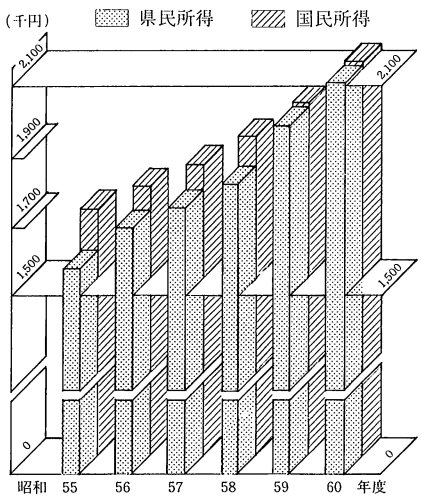
昭和60年度の県内総生産は昭和55年度に比較し約２兆円増加して６兆７948億円となっている。

昭和60年度を地域別にみると県北2兆８214億円(41.6%)，鹿行９407億円(13.8%)，県南1兆６815億円(24.7%)，県西1兆３512億円(19.9%)となっている。

１人当たりの県民所得は過去５年間で52万１千円増加している。

また昭和60年度は210万３千円で前年比6.0%の増となり，初めて国と同じ水準に達している。

１人当たり県(国)民所得の推移



１人当たり県(国)民所得の推移　(単位：千円)

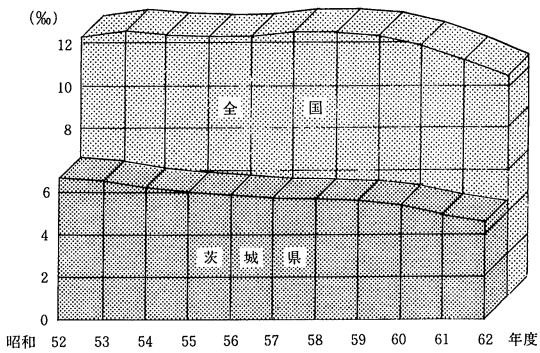
区 分	55年度	56	57	58	59	60
茨城県	1,582	1,700	1,754	1,820	1,984	2,103
国	1,704	1,767	1,828	1,910	1,996	2,105

資料：県統計課「県民経済計算」，経済企画庁「国民経済計算年報」

福祉・保健

全国と本県の生活保護率を比べると各年度とも本県は全国の２分の１の水準にあり，昭和62年度は全国の10.36‰に対し本県は4.50‰となっている。

生活保護率の推移



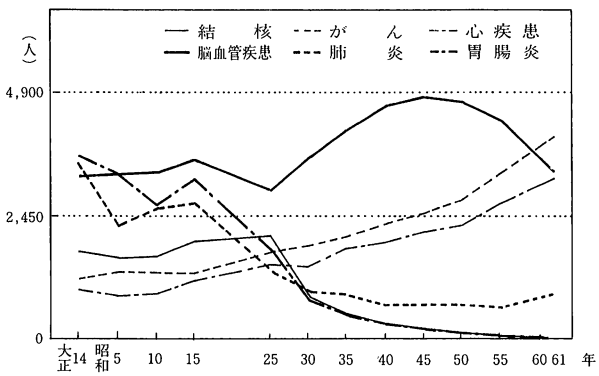
注）被保護実人員率(‰)は人口1,000人当たりの被保護実人員数である。
資料：厚生省「社会福祉行政業務報告」
県社会福祉課

３大死亡原因をみると大正14年は胃腸炎，肺炎，脳血管疾患の順であったが，昭和60年以降はがん，脳血管疾患，心疾患の順になっている。

また，大正14年に第４位だった結核は昭和61年には第10位になっている。

昭和５年から59年まで死亡原因のトップだった脳血管疾患は60年以降は第２位となり代わって，がんがトップになっている。

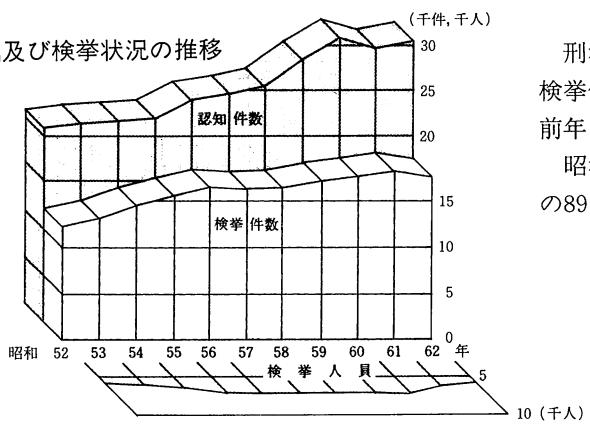
主要死亡原因別死亡者数の推移



資料：県医務課「茨城県衛生統計年報」

公　安

刑法犯認知及び検挙状況の推移



資料：県警刑事総務課「茨城の犯罪」

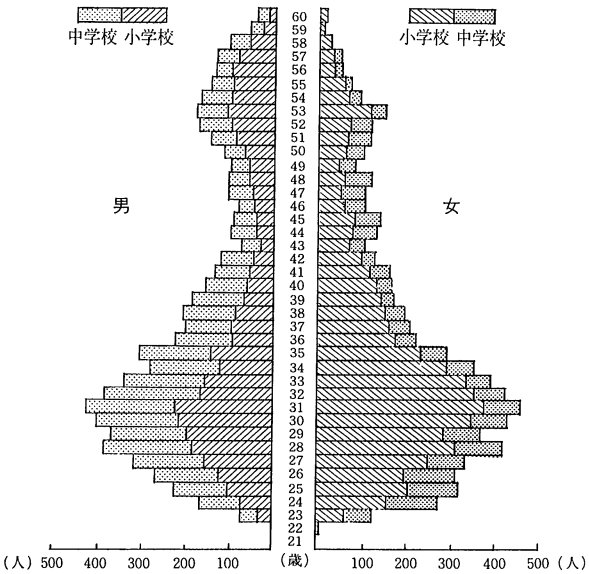
刑法犯認知件数は増加傾向にあるが，検挙件数及び検挙人員は昭和62年には前年に比べ減少している。

昭和62年の認知状況は窃盗犯が全体の89.1%を占めている。

（注）認知件数
警察において認知した事件の数
検挙件数
警察において検挙した事件の数（解決事件を含む）
検挙人員
警察において検挙した事件の被疑者（解決事件に係る者を除く）の数

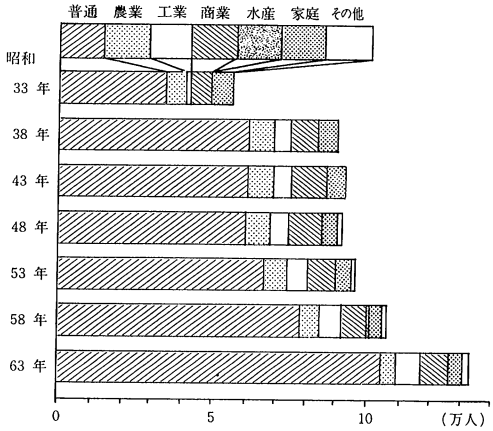
教　育

男女別・年齢別教員数（昭和63年５月１日現在）



小学校及び中学校教員を男女別・年齢別にみると，小学校においては，40歳以下の女子教員の割合が高いことがわかる。

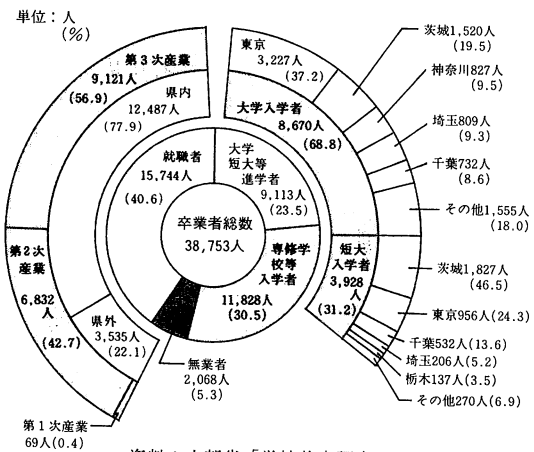
高等学校(本科)学科別生徒数（昭和33～63年）



資料：文部省「学校基本調査」

学科別生徒数を昭和33年から63年までをみると，生徒総数は，約2.4倍に増加した。職業科は横ばいないし減少に対し，普通科の増加はいちじるしく，特に生徒総数の増加が目立つ33年～38年，58年～63年にかけてはいちじるしく増加している。

高等学校卒業者の進路別割合（昭和63年３月卒業者）



資料：文部省「学校基本調査」

昭和63年３月卒業者のうち，大学・短大等進学者は9,113人(23.5%)であるが，63年以前卒業者も含めた入学者数は12,598人である。

その所在地別にみると，大学では東京が，短大では茨城が最も多い。

また就職者をみると，77.9%が県内であり，産業別にみると，第３次産業が56.9%で最も多く，次いで第２次産業の42.7%，第１次産業はわずか0.4%である。

新　春　雑　感

定年度の巳年

統計指導グループ
松　崎　　節

昭和4年生まれの県庁生活最後の巳年となった。

今年も新しい年がやってきた。それも巳年だと言う。自分ではあまり気にもせず毎年毎年をすごしてきたようだ。統計いばらき喫煙室に寄稿することになり，初めて5回目の年男だと今感じている。特に抱負などもない昨年は何にか体調をくずしいやな1年だったが，今年は体調を整えがんばらねばならない。

退職後は，たいした望みではないが，もう一回日本中の温泉めぐりでもしたいものである。

若い頃は，あそこに行ったから今年はどこへと常日頃時刻表を何回も広げて，楽しんだものだ。

今はバス会社と連携をとるとどこへでも行け，観光温泉めぐりができる便利な世の中になったものだ。せいぜい健康管理を十分にして，次の巳年，次の巳年と希望をつないで行こう。

新春に思う

統計指導グループ
香　山　　俊

明けましておめでとうございます。今年は巳年ですが，私は干支には余り関心がありません。従って，自分が巳年だからどうのこうのとか，巳年の性格は云々といった占いにも興味がありません。

それでも，4回目の巳年を迎えて，流石に年をとったものとの感慨はあるようです。そして，誰しも思うことでしょうが，石川啄木の「何事か今年はよいことある如し　元日の朝晴れて風なし」という歌のように，やはり元日は晴れて欲しいといつも願っています。元日が天気がいいと啄木のように思うからでしょう。それと同時に，年頭にはまた誰でも，決意新たにいろいろと計画をたてるようです。今年こそは日記をつけようなどと決意する人は多いでしょうが，私は過去何年間か毎日欠かさずつけているので，これは今年も実行できると思っています。

次に，自己宣伝のようで恐縮ですが，私は，今まで「詩・小論・川柳」，「(続)詩・小論・川柳」，「小学時代」と三冊程，自費出版していますが，今年は是非「中学高校時代(仮名)」を年末までに刊行したいと思っています。

己巳年

人口労働グループ
柏　村　昌　子

一年の計は元旦にあり，とありますように新年は希望にもえて新たな計画をたてる時でありますが，どうも私位の年になりますと，計画をたてる間にどおーんと一年が過ぎ去ってしまいどうにもうまく参りません。若い皆様方は大きな計画をたてどんどん実行に移してください。

さて今年の私は……。いつもと同じ，物見心，四季折り成す季節感，限りあり時，を大切にしたい。

今年は巳年。どおーんと過ぎるであろう己巳(つちのとみ)の年。

今思うこと

人口労働グループ
広　瀬　勝　己

その1…「性格は，そうそう改められるものではない」ということを頑なに信じている私にとって，巳年，いや新年を迎えるといっても，改めてどう

しようなどという思いはない。年末，年始の慌しさを思うと気は重い。

その2…ところでテレビドラマ(水戸黄門など)でよく見かけるパターンに，放蕩三昧の人物が，ある「きっかけ」で突然家業に精を出すという下りがある。

よく考えてみると，これは，その人の性格が変わったからそうなったのではなく「きっかけ」があったことと，「環境」(そうせざるを得ない状況になった)が変わったためである。

1と2から次のように思う。性格を変えることは無理でも生き方は変えることが出来ると。

いま，自分に出来る大切なことは，せめても良い環境を導くよう努力することであり，その最も重要な部分は人間関係である。人と人の接し方の心得を最も良く表した言葉，「一期一会(いちごいちえ)」を日々心掛けて歩みたいと思っている。

統計課の巳年生まれの方

とっても寒いので

企画分析グループ
森　田　教　司

とっても寒いのでポケットに手をつっこみ，うつむき加減に歩いていると，思いっきり頭を強打した。こんな中途半端な高さに看板なんかつくるなよ。(人からみれば，正常な位置かもしれないけれど……。)

頭を触ってみる。その手を見てみる。うっすらと赤いものが。ぶつけたことは今まで何度かあったが，血まで出たのはそれが初めてだった。

皆さん，私はこの世の中を命掛けで生きているのです。

控え目に生きたいのに……。ほら，また初対面の人が私に聞いてくる，「大きいね，身長いくつ？」。

干支のはなし　―統計インフォメーション No.17から―

十干十二支(じっかんじゅうにし)

十干と十二支の組み合わせで暦法の年，月，日，時をあらわすもの。中国の古代暦法に起こって我が国にも伝わり，数々の俗信を生むもととなった。干支(えと)ともいう。

十干は，甲(こう)乙(おつ)丙(へい)丁(てい)戊(ぼ)己(き)庚(こう)辛(しん)壬(じん)癸(き)を，十二支は，子(し)丑(ちゅう)寅(いん)卯(ぼう)辰(しん)巳(し)午(ご)未(び)申(しん)酉(ゆう)戌(じゅつ)亥(がい)をさす。

この十二支の源義や字義については，諸解説のあるところであるが，農耕生活を反映する自然暦の発想をもとに，草木の茅生えから，成長，収穫，大地への内蔵とされる経過を表しているというのが一般的である。これに，鼠，牛，虎などの十二支獣を配当したのはかなり後といわれている。

巳(み)年の主な出来事

明治26年	•「君が代」国歌に制定
38年	•アインシュタイン 特殊相対性理論を発表
大正 6年	•活動写真が「映画」に
昭和 4年	•ニューヨーク株式市場大暴落(世界大恐慌)
16年	•真珠湾奇襲攻撃
28年	•ＮＨＫテレビ放送開始
40年	•朝永振一郎，ノーベル物理学賞受賞
52年	•巨人軍王貞治，本塁打世界新の756号を打つ。

(統計課・人口労働グループ)